

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

# デーヴォ ガイド



**2020.5.4-5.10**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

13:1 あなたがたのうちに預言者または夢見る者が現われ、あなたに何かのしるしや不思議を示し、

13:2 あなたに告げたそのしるしと不思議が実現して、「さあ、あなたが知らなかったほかの神々に従い、これに仕えよう。」と言っても、

13:3 その預言者、夢見る者のことばに従ってはならない。あなたがたの神、主は、あなたがたが心を尽くし、精神を尽くして、ほんとうに、あなたがたの神、主を愛するかどうかを知るために、あなたがたを試みておられるからである。

13:4 あなたがたの神、主に従って歩み、主を恐れなければならない。主の命令を守り、御声に聞き従い、主に仕え、主にすがらなければならない。

13:5 その預言者、あるいは、夢見る者は殺されなければならない。その者は、あなたがたをエジプトの国から連れ出し、奴隷の家から贖い出された、あなたがたの神、主に、あなたがたを反逆させようとそそのかし、あなたの神、主があなたに歩めと命じた道から、あなたを迷い出させようとするからである。あなたがたのうちからこの悪を除き去りなさい。

13:6 あなたと母を同じくするあなたの兄弟、あるいはあなたの息子、娘、またはあなたの愛妻、またはあなたの無二の親友が、ひそかにあなたをそそのかして、「さあ、ほかの神々に仕えよう。」と言うかもしれない。これは、あなたも、あなたの先祖たちも知らなかった神々で、

13:7 地の果てから果てまで、あなたの近くに

いる、あるいはあなたから遠く離れている、あなたがたの回りの国々の民の神である。

13:8 あなたは、そういう者に同意したり、耳を貸したりしてはならない。このような者にあわれみをかけたり、同情したり、彼をかばったりしてはならない。

13:9 必ず彼を殺さなければならない。彼を殺すには、まず、あなたが彼に手を下し、その後、民がみな、その手を下すようにしなさい。

13:10 彼を石で打ちなさい。彼は死ななければならない。彼は、エジプトの地、奴隷の家からあなたを連れ出したあなたの神、主から、あなたを迷い出させようとしたからである。

13:11 イスラエルはみな、聞いて恐れ、重ねてこのような悪を、あなたがたのうちで行なわないであろう。

偶像礼拝などするはずがないと思っている人でも、何かの条件が揃えば、誘惑に勝てない場合もあるかもしれません。それについて警告しています。ひとつは、「しるしと不思議が実現」したときです。ここに確かな力があると、驚き、さらなる興味がわいて、引き寄せられないとも限りません。そのようにして本当の神から離れた人も中にはあるでしょう。

または、「兄弟、あるいはあなたの息子、娘、またはあなたの愛妻、またはあなたの無二の親友」が、偶像礼拝へと誘う場合です。人情はとても大切です。しかし、人情ゆえに罪を犯してはなりません。そのときは家庭や友のためと思って、結果的には邪教の風習で子どもをいけにえにしたり、神の祝福を失い、他国の軍隊に殺されてしまったというのが歴史です。

新約の時代には旧約のように「殺す」ことは命じられませんが、しかし肉の命よりもっと重要な永遠の命を損なってしまわないようにしなければ

なりません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 5日 火曜

### 申命記

13:12 もし、あなたの神、主があなたに与えて住まわせる町の一つで、

13:13 よこしまな者たちが、あなたがたのうちから出て、「さあ、あなたがたの知らなかったほかの神々に仕えよう。」と言って、町の住民を迷わせたと聞いたなら、

13:14 あなたは、調べ、探り、よく問いたださなければならない。もし、そのような忌みきらうべきことがあなたがたのうちで行なわれたことが、事実で確かなら、

13:15 あなたは必ず、その町の住民を剣の刃で打たなければならない。その町とそこにいるすべての者、その家畜も、剣の刃で聖絶しなさい。

13:16 そのすべての略奪物を広場の中央に集め、その町と略奪物のすべてを、あなたの神、主への焼き尽くすいけにえとして、火で焼かなければならない。その町は永久に廃墟となり、再建されることはない。

13:17 この聖絶のものは何一つ自分のものにしてはならない。主が燃える怒りをおさめ、あなたにあわれみを施し、あなたをいつくしみ、あなたの先祖たちに誓ったとおり、あなたをふやすためである。

13:18 あなたは、必ずあなたの神、主の御声に聞き従い、私が、きょう、あなたに命じるすべての主の命令を守り、あなたの神、主が正しいと見られることを行なわなければならない。

偶像の神々に仕えることが、どれほど忌み嫌われることなのかが、はっきりと示されている命令です。それには命がかかっているほどです。実際に偶像礼拝をすることによって、子どもを火に焼いていけに



えにすることがありました。また神様からの守りがなくなることによって、近隣の国々から攻められ、多くが殺されました。

現代は新約の世ですから、命とは永遠の命を考える必要があります。偶像礼拝は、この永遠の命を損なうのです。偶像礼拝をしたからといって、すなわち家に仏壇があったり、神社に参拝をしたらかといって、主に殺されるわけではありません。しかし、永遠の命が弱り主のみわざが進まないことは明らかです。または誰かをつまずかせることによって、永遠の命が死に追いやられるかもしれません。

偶像礼拝、偶像に仕えること、偶像と関わることの重大性を心に留めましょう。そして徹底的に心の内にある偶像さえも取り除きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 6日 水曜

### 申命記

14:1 あなたがたは、あなたがたの神、主の子どもである。死人のために自分の身に傷をつけたり、また額をそり上げたりしてはならない。

14:2 あなたは、あなたの神、主の聖なる民である。主は、地の面のすべての国々の民のうちから、あなたを選んでご自分の宝の民とされた。

14:3 あなたは忌みきらうべきものを、いっさい食べてはならない。

14:4 あなたがたが食べることのできる獣は、牛、羊、やぎ、

14:5 鹿、かもしか、のろじか、野やぎ、くじか、おおじか、野羊。

14:6 および、ひづめが分かれ、完全に二つに割れているもので、反芻するものは、すべて食べることができる。

14:7 反芻するもの、または、ひづめの分かれたものうち、らくだ、野うさぎ、岩だめきは、食べてはならない。これらは反芻するが、ひづめが分かれていない。それは、あなたがたには汚れたものである。

14:8 豚もそうである。ひづめは分かれているが、反芻しないから、あなたがたには汚れたものである。その肉を食べてはならない。またその死体にも触れてはならない。

14:9 すべて水の中にいるものうち、次のものをあなたがたは食べることができる。すべて、ひれとうろこのあるものは食べることができる。

14:10 ひれとうろこのないものは何も食べてはならない。それは、あなたがたには汚れたものである。



14:11 すべて、きよい鳥は食べることができる。

14:12 食べてならないものは、はげわし、はげたか、黒はげたか、

14:13 黒とび、はやぶさ、とびの類、

14:14 鳥の類全部、

14:15 だちょう、よたか、かもめ、たかの類、

14:16 ふくろう、みみずく、白ふくろう、

14:17 ペリカン、野がん、う、

14:18 こうのとりの類、やつがしら、こうもり。

14:19 羽があつて群生するものは、すべてあなたがたには汚れたものである。

14:20 羽のあるきよいものはどれも食べることができる。

14:21 あなたがたは自然に死んだものを、いっさい食べてはならない。あなたの町囲みの中にいる在留異国人にそれを与えて、彼がそれを食べるのはよい。あるいは、外国人に売りなさい。あなたは、あなたの神、主の聖なる民である。子やぎをその母の乳で煮てはならない。

当時、食物によって人間の体ができるので、何を食べるかでその人の性質が形成されると考えられていました。現代でも食物成分は心までも影響を与えることが知られています。そこでこれらの命令は心理的な意味があつたと思われれます。その生物の生態が少なからず影響を与えると思われれたでしょう。

「食べてることのできる獣」は、ひづめが分かれています。この世に抗つても、正しい道に歩めるといふ性質を表します。また反芻します。これは神のみことばを何度も思い起こしながら食べる性質を意味します。死体に触れないのは、命のないものに影響されないためです。うろこのないものはぬるっとしていて、神様からの関わりをす

り抜けてしまうような態度を表しています。群生するものは周囲に流されやすい生き方を表します。子やぎを母の乳で煮るなどという冷淡な習慣があるなら、そのような社会は心理的に歪んでくるでしょう。

主の教えにはことごとく意味と理由があります。従いましょう。そしてここにあるような生き方や信仰の姿勢に対して、感性を持つものとなりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 7日 木曜

### 申命記

14:22 あなたが種を蒔いて、畑から得るすべての収穫の十分の一を必ず毎年ささげなければならない。

14:23 主が御名を住まわせるために選ぶ場所、あなたの神、主の前で、あなたの穀物や新しいぶどう酒や油の十分の一と、それに牛や羊の初子を食べなさい。あなたが、いつも、あなたの神、主を恐れることを学ぶために。

14:24 もし、道のりがあまりに遠すぎ、持つて行くことができないなら、もし、あなたの神、主が御名を置くために選ぶ場所が遠く離れているなら、あなたの神、主があなたを祝福される場合、

14:25 あなたはそれを金に換え、その金を手に結びつけ、あなたの神、主の選ぶ場所に行きなさい。

14:26 あなたは、そこでその金をすべてあなたの望むもの、牛、羊、ぶどう酒、強い酒、また何でもあれ、あなたの願うものに換えなさい。あなたの神、主の前で食べ、あなたの家族とともに喜びなさい。

14:27 あなたの町囲みのうちにいるレビ人をないがしろにしてはならない。彼には、あなたのうちにあつて相続地の割り当てがないからである。

14:28 三年の終わりごとに、その年の収穫の十分の一を全部持ち出し、あなたの町囲みのうちに置いておかなければならない。

14:29 あなたのうちにあつて相続地の割り当てのないレビ人や、あなたの町囲みのうちにいる在留異国人や、みなしごや、やもめは来て、食べ、満ち足りるであろう。あなたの神、主が、あなたのすべての手のわざを祝福して



くださるためである。

この十分の一は神へのささげものの十分の一とは別のもので、「第二の十分の一」と呼ばれていました。それは主にささげるのですが、主はご自身のものとして、それを民の喜びのために使いなさいということです。好きな食べ物やお酒にして「喜びなさい」というのが、神からの命令です。

私たちには人生を、楽しいものとしなくてはなりません。主が与える人生は楽しいものだからです。もちろん自分勝手な楽しみではないことは明白です。主を愛し、主のみを礼拝し、主の戒めを守ることが大前提ではあります。しかし、そのような戒めをお与えになる主は、私たちを縛るのが目的ではないのです。

本当の喜びは創造主にして愛の神である主にあります。その主に従うことは人生の喜びであり、人生を本当に楽しもうと思ったら、主を信じて従うことです。

ここでレビ人、在留異国人、みなしご、やもめのためにも十分の一を用いることが命じられています。このような人々を大切にすることが、社会の祝福であり、社会のためになるということです。経済の面など人生に制約がある人々を大切にすることが、自分自身の祝福になるのだということを理解しましょう。そして主の御心のゆえに、その祝福をいただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？





## 8日 金曜

### 申命記

15:1 七年の終わりごとに、負債の免除をしなければならない。

15:2 その免除のしかたは次のとおりである。貸し主はみな、その隣人に貸したものを免除する。その隣人やその兄弟から取り立ててはならない。主が免除を布告しておられる。

15:3 外国人からは取り立てることができるが、あなたの兄弟が、あなたに借りているものは免除しなければならない。

15:4 そうすれば、あなたのうちには貧しい者がなくなるであろう。あなたの神、主が相続地としてあなたに与えて所有させようとしておられる地で、主は、必ずあなたを祝福される。

15:5 ただ、あなたは、あなたの神、主の御声によく聞き従い、私が、きょう、あなたに命じるこのすべての命令を守り行なわなければならない。

15:6 あなたの神、主は、あなたに約束されたようにあなたを祝福されるから、あなたは多くの国々に貸すが、あなたが借りることはない。またあなたは多くの国々を支配するが、彼らがあなたを支配することはない。

15:7 あなたの神、主があなたに与えようとしておられる地で、あなたのどの町囲みのうちでも、あなたの兄弟のひとりが、もし貧しかったなら、その貧しい兄弟に対して、あなたの心を閉じてはならない。また手を閉じてはならない。

15:8 進んであなたの手を彼に開き、その必要としているものを十分に貸し与えなければならない。

15:9 あなたは心に邪念をいだき、「第七年、



免除の年が近づいた。」と言って、貧しい兄弟に物惜しみして、これに何も与えないことのないように気をつけなさい。その人があなたのことで主に訴えるなら、あなたは有罪となる。

15:10 必ず彼に与えなさい。また与えるとき、心に未練を持ってはならない。このことのために、あなたの神、主は、あなたのすべての働きと手のわざを祝福してくださる。

15:11 貧しい者が国のうちから絶えることはないであろうから、私はあなたに命じて言う。「国のうちにいるあなたの兄弟の悩んでいる者と貧しい者に、必ずあなたの手を開かなければならない。」

7年ごとに負債は免除にするようにとの命令です。それでは誰もお金を貸す人がいなくなるでしょうが、神様はそこも見通して、「貧しい兄弟に物惜しみをして、これに何も与えないことのない(なら)…有罪となる。」との命令です。貧しい人への配慮が行き届いています。これはイスラエル社会全体のためです。人々の心がすさんでは、争いが絶えず犯罪も多くなり、そのために社会全体が貧しくなるのです。もともと財産は神のもので、神様が人に預けているのであって、それを貧しい人に与えるためのものなのです。もしもそれをしなければ、主が「有罪」とするので、富も祝福も失うでしょう。

私たちは誰かを助けるために財を預かっているのですから、自分は誰を助けるべきか主に聞きましよう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



## 9日 土曜

### 申命記

15:12 もし、あなたの同胞、ヘブル人の男あるいは女が、あなたのところに売られてきて六年間あなたに仕えたなら、七年目にはあなたは彼を自由の身にしてやらなければならない。

15:13 彼を自由の身にしてやるときは、何も持たせずに去らせてはならない。

15:14 必ず、あなたの羊の群れと打ち場と酒ぶねのうちから取って、彼にあてがってやらなければならない。あなたの神、主があなたに祝福として与えられたものを、彼に与えなければならない。

15:15 あなたは、エジプトの地で奴隷であったあなたを、あなたの神、主が贖い出されたことを覚えていなさい。それゆえ、私は、きょう、この戒めをあなたに命じる。

15:16 その者が、あなたとあなたの家族を愛し、あなたのもとにいてしあわせなので、「あなたのところから出て行きたくありません。」と言うなら、

15:17 あなたは、きりを取って、彼の耳を戸に刺し通しなさい。彼はいつまでもあなたの奴隷となる。女奴隷にも同じようにしなければならない。

15:18 彼を自由の身にしてやるときには、きびしくしてはならない。彼は六年間、雇い人の賃金の二倍分あなたに仕えたからである。あなたの神、主は、あなたのなすすべてのことにおいて、あなたを祝福してください。

15:19 あなたの牛の群れや羊の群れに生まれた雄の初子はみな、あなたの神、主にささげなければならない。牛の初子を使って働いてはならない。羊の初子の毛を刈ってはなら



ない。

15:20 主が選ぶ場所で、あなたは家族とともに、毎年、あなたの神、主の前で、それを食べなければならない。

15:21 もし、それに欠陥があれば、足なえか盲目など、何でもひどい欠陥があれば、あなたの神、主にそれをいけにえとしてささげてはならない。

15:22 あなたの町囲みのうちでそれを食べなければならない。汚れた人もきよい人も、かもしかや、鹿と同じように、それを食べることができる。

15:23 ただし、その血を食べてはならない。それを地面に水のように注ぎ出さなければならない。

7年めには奴隷も解放するようにとの、神様の命令です。古代の社会ではこれは驚くべきことです。どの古代社会を見ても、権力や武力によって人の上に立ち、弱い立場の者が省みられることはありませんでした。それが人間の本性であり、権力者の姿です。

しかし神様から与えられた教えに従うイスラエルだけは、弱い者を省みるようになっており、それは神の存在なしには考えられないことです。

ただし、中には主人から去りたくない奴隷もあり、そのための規定も示されています。これはクリスチャンである私たちがイエス様の許を去りたくないのと同じです。私たちは耳を刺し通されるように、しっかりと印を付けていただき、主人の言葉をよく聞くようにしていただき、イエス様と生涯ともに歩みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



16:1 アビブの月を守り、あなたの神、主に過越のいけにえをささげなさい。アビブの月に、あなたの神、主が、夜のうちに、エジプトからあなたを連れ出されたからである。

16:2 主が御名を住まわせるために選ぶ場所で、羊と牛を過越のいけにえとしてあなたの神、主にささげなさい。

16:3 それといっしょに、パン種を入れたものを食べてはならない。七日間は、それといっしょに種を入れないパン、悩みのパンを食べなければならない。あなたが急いでエジプトの国を出たからである。それは、あなたがエジプトの国から出た日を、あなたの一生の間、覚えているためである。

16:4 七日間は、パン種があなたの領土のどこにも見あたらないようにしなければならない。また、第一日目の夕方にいけにえとしてほふったその肉を、朝まで残してはならない。

16:5 あなたの神、主があなたに与えようとしておられるあなたの町囲みのどれでも、その中で過越のいけにえをほふることはできない。

16:6 ただ、あなたの神、主が御名を住まわせるために選ぶその場所で、夕方、日の沈むころ、あなたがエジプトから出た時刻に、過越のいけにえをほふらなければならない。

16:7 そして、あなたの神、主が選ぶその場所で、それを調理して食べなさい。そして朝、自分の天幕に戻って行きなさい。

16:8 六日間、種を入れないパンを食べなければならない。七日目は、あなたの神、主へのきよめの集会である。どんな仕事もしてはならない。

16:9 七週間を数えなければならない。かま

を立穂に入れ始める時から、七週間を数え始めなければならない。

16:10 あなたの神、主のために七週の祭りを行ない、あなたの神、主が賜わる祝福に応じ、進んでささげるささげ物をあなたの手でささげなさい。

16:11 あなたは、あなたの息子、娘、男女の奴隷、あなたの町囲みのうちにいるレビ人、あなたがたのうちの在留異国人、みなしご、やもめとともに、あなたの神、主の前で、あなたの神、主が御名を住まわせるために選ぶ場所で、喜びなさい。

16:12 あなたがエジプトで奴隷であったことを覚え、これらのおきてを守り行ないなさい。

イスラエルにも祭りがありました。神様が命じられたもので、それは神様のみわざを記念するためでした。祭りは信仰のために必要であり、また共同体が主にあって一致するためにも必要なものです。教会の行事、または一般的にも浸透しているキリスト教の行事を大切にしましょう。

ここにある過ぎ越しの祭りは、イスラエルがエジプトから開放されたときを記念しています。子羊の地のあるところが救われたように、新約の意味はイエス様の犠牲とあがないです。羊のいけにえはイエス様を表し、種を入れないパンは罪のないことを表し、肉を朝まで残さないのは、恵みのときは続かないので決断が必要であることを表します。

7週間を数えるという祭りは、初穂を駆る日を入れて50日めになるので、ペンテコステといわれます。これは聖霊降臨の日になりました。この地上を豊かな実りとともに歩むには、聖霊が必要です。

これらの真理と恵みを表すために、イスラエルの祭りのように、自分や家族にとって印象深いことを実行してみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

